

2026年3月期第1四半期決算説明会 主なQ&A

- Q 1Qの実績は社内想定よりも上振れているように見えるが、セグメントの中身を含めどう評価しているか。また、一過性の要因はあるか。
- A 利益は上振れ基調であり、特に定期外の運輸収入が寄与した。また、大雨や水害等の特殊要因はなく、費用もほぼ想定通り推移した。
- Q 定期外の運輸収入が計画対比で良い要因は。逸走が想定より少なかったのか、あるいは基礎的な需要が良好だったのか。
- A 想定よりも良いスタートだったが、逸走についてはまだ分析中だ。逸走はあったものと想定しているが、それを考慮しても上振れ基調で着地したと考えている。追い風の要因について、運賃改定申請時点と比較し賃上げが進行し、移動需要が喚起されたと考えている。ご利用状況を前年と比較すると、各線区とも平日よりも休日の方が3~5ポイントほど前年比が大きく、ベースとしてレジャー需要の高まりがあったと考えている。また、福岡エリアではイベントが増加しており、その影響もあったとみている。加えて、梅雨明けも今年は早く晴天日の増加といった要因もあろう。今後について、前期の第2四半期は地震や台風の影響があり、また9月以降定期の逸走の状況も注視しつつ精査していきたい。
- Q 旅客数は想定以上とのことで、今後も好調に推移した場合利益に直結しやすいと考えるが、その認識で良いか。
- A 運輸収入の伸びは好業績に繋がると考える一方で、費用のトレースも必要だ。今後の費用増を考慮しつつ、利益水準を判断していきたい。
- Q 運賃改定後の旅客の状況は想定を上回っているとのことだが、要因は国内のお客さまか、インバウンドのお客さまか、どのように捉えればよいか。
- A インバウンドのお客さまの状況はお示ししている通りだが、先ほどお伝えしたイベントや天候の状況に鑑みると国内のお客さまの増が大きく寄与しているものと考えている。
- Q 大阪万博の影響は。プラスとマイナスの影響があろうが、どう捉えているか。
- A 一定程度の影響は想定されるが、現状明確な分析はできていない。今後、分析精度を高めていく。

- Q ホテルの稼働率について、災害の噂の影響が懸念されていたが、7月の状況はどうか。また、そこからの回復の状況はどう認識しているか。また、7月に減退した需要が8月以降にずれたのか。
- A 1Qは順調だったが、7月は若干災害の噂の影響があった。8月以降は予約状況も前期比で良く、一過性のものと考えているが、今後も注視していく。なお、7月の需要が単純に8月にずれれることは考えにくいですが、今後も分析を進めていきたい。
- Q 他社IPの活用による需要創出効果はどう捉えているか。また、今後アミュプラザ博多への「Nintendo FUKUOKA」の出店も控えているが、IPを活用した取り組みについてのコメントは。
- A IPを活用した取り組みは効果的であると考えており、施策を通して新たな需要創出を図っていきたい。また、効果についても定量・定性の両面で把握していきたい。
- Q TSMC第2工場の竣工が遅れる旨の報道があったが、新駅や物流施設への影響は。
- A 報道は承知しているが、基本的には整備されると認識しており、物流施設や新駅への大きな影響はないと考えている。また豊肥本線は今後も伸びていく線区と考えており、不動産の仕込みや鉄道の機能向上に向けた取り組みを実施していく。

#### <ご留意事項>

- ※ 本資料は、説明会当日の質疑をそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。また、本資料は、説明会当日時点において入手可能な情報、予測や作成時点における仮定に基づいた当社の判断等によって記述されたものであります。そのため、今後、国内外および九州の経済情勢、不動産市況、各プロジェクトの進捗、法令規制の変化、その他の幅広いリスク・要因の影響を受け、実際の経営成績等が本資料に記載された内容と大きく異なる可能性があることにご留意ください。

以上